

科目名	ジェンダー論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次 読替科目：法ビジネス「生涯開発論VI」	
科目概要	<p>授業内容 「ジェンダー」とは、私たちの性差意識が社会的文化的に作られていることを重視する考え方であり、①生物学的差異に過剰な意味づけをして、性別二分化で説明してしまう「思考の癖」を見直そうとすること、②1人1人を取り巻く日常的現実の、個別具体的な状況や行為の中に、性差別や人権侵害を見いだし、その解決策を探ろうとすることである。講義では、学校・家族・恋人や就職・職場など日常生活に素材を取って、受講生の討論を促す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーの観点から社会の具体的な現状について認識できる。 ・日常の社会事象に性差別を認識でき、性差別を解消するための知識や意欲を獲得する。 ・自分の意見を表現し、他者とディベイトし、多様な意見・多様な価値観を承認し合うことの重要性を実感できる。 	
授業計画	(1) イントロダクション 男女の差異と「ジェンダー」の発見 (2) 生物学的性差 (sex)・社会的文化的な性差 (gender) (3) 「ジェンダー」の社会化—家族・学校と「男女の特性」教育 (4) 現代日本の「ジェンダー問題」1—「差別差別」と言い立てすぎなのか? (5) 現代日本の「ジェンダー問題」2 —「男女平等」と「性別役割分担」の到達点 (6) 現代日本の「ジェンダー問題」3—男性の「生きづらさ」の社会現象 (7) データが示す職場における男女平等・男女差別の現段階 (8) 職場における「男の仕事」「女の仕事」一間接差別・直接差別 (9) 職場での性差別に、人々はどのように対応してきたか (10) 女性就労の「M字型曲線」は問題か?問題ない? (11) 日本の究極のジェンダー問題—子育て・仕事をめぐる男女と社会の関係 (12) 国際社会から見た「日本のジェンダー問題」 (13) ワークショップ「セクハラ・DVはなぜ許せない」と説明するか (14) ワークショップ「女性が生きやすい社会は男性も生きやすい」 (15) 総まとめ	
	事前学習	新聞・TVでのジェンダーに関わるニュースに目を通しておくこと。
自学自習	事後学習	ワークショップは毎回授業のテーマを参考にするので、事後学習で深めておくこと。
	<p>【参】伊藤公雄他『男性学・女性学』有斐閣, 2002年 国連「女子差別撤廃条約」, 1979年 熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波新書, 2000年 沼崎一郎『なぜ男は暴力を選ぶのか』かもがわ出版, 2002年</p>	
成績評価方法 と基準	<p><方法>単位レポート80%、授業中の小レポート10点、授業参加点10%</p> <p><基準>「ジェンダー」の理解状況、自分のジェンダー意識の批判的自己分析ができるかどうか、及び授業テーマへの真摯な態度と積極的な参加を重視。</p>	
備考	授業中の小レポートで受講生自身の経験や意見・自己分析等を書いてもらい、それを授業の「教材」にして展開する。受講生の積極的な参加を求める。	